

## 熱中症で乗務員が病院に搬送 これ以上、熱中症を出さないために訴えます！

5月25日、東海道線の運転士が、運転中に熱中症の症状で列車を緊急停止し、そのまま病院に搬送されました。5月27日付『中日新聞』は、同列車の車掌も熱中症の症状で病院に搬送されたと伝えています。

JR東海では制服について、5月31日までは合服で上着の着用が義務づけられています。6月1日から夏服になるものの、ネクタイの着用が義務づけられています。新聞の写真を見ての通り、他の鉄道会社との違いは一目瞭然です。ここ連日、気温が上昇し夏日・真夏日が続いています。運転室は直射日光が入るため冷房の効きは好くありません。

このような労働環境の中、乗務員は長時間の乗務を強いられています。多くの乗務員から「暑いときは上着を脱ぎたい」「内勤などの社員は上着を脱いで仕事をしている。不公平だ」などの意見が出されています。

2015年5月27日『中日新聞』

**車掌も熱中症に?**

JR東海によると、この車掌は二十五日、午前十一時前に出勤し、点検時には異常はなかった。同十一時四十分ごろ、大垣駅から新快速列車に乗車。幸田・相見間で体調不良を訴え、病院に搬送された。

**JR東海 運転士搬送**

JR東海によると、この車掌は二十五日、午前十一時前に出勤し、点検時には異常はなかった。同十一時四十分ごろ、大垣駅から新快速列車に乗車。幸田・相見間で体調不良を訴え、病院に搬送された。

他社夏服 衣替えきょうに前倒し

二社とも運転席での飲食は禁止だが、体調がすぐれないとき、指合所の了解があれば列車を停止し、水分補給できる。ただしJR東海では、乗務終了後に報告書の提出が義務付けられており、運転士の一人は「いつ水分を取ったか、客から苦情はなかったかなど手細かに報告しなければならず、そこまでして水を飲みたがる人はいない」と話している。

全社員の皆さん、熱中症対策の第一は、制服の着用から見直すべきだと思いませんか？東海鉄事や静岡支社管内の職場は、前倒しで夏服の着用を認めました。対策としては正しい判断です。しかし、幹鉄事や関西支社では、夏服前倒し着用を認めません。同じ会社で、同じ社員なのになぜ違うのでしょうか？制服着用についてはもっと弾力的に運用するべきと思いませんか？「暑いときは脱ぐ、寒いときは着る」ことがよりベターな体調管理だと思いませんか？おかしいことは、職場から声を上げましょう！